

平成 29 年 5 月 1 日

東北公益文科大学

庄内オフィス長 鎌田 剛 様

東北公益文科大学 地（知）の拠点整備事業  
外部評価委員会

平成 28 年度外部評価委員会の審議結果について

標記について、貴オフィスから説明のあった内容を審議した結果、貴学の取組みは概ね目標どおりに進展しているものと考えます。

なお、評価の過程で提示された委員からのコメント（別紙）について十分参考の上、今後の取組みを進められるよう要望いたします。

(別紙)

28 年度実施事業に対する外部評価委員コメント (1)

- 総合的に、多くのことを一つ一つしっかりと取り組み、フォローアップも行われている点は評価できる。
- カリキュラムについて、配布資料では「FD」「アクティブ・ラーニング」「ディプロマポリシー」といった用語が出てくるが、COC との関連性が今一つ読み取れない。担当者の説明を聞いて理解できたが、資料作成に工夫が必要である。関連して、違う事業区分（「運営」と「アクション・プロジェクト」）なのに、成果実績（アウトカム）が全く同じ個所が見られた。このままでは解釈が難しいので、細かい点だが改良を望みたい。
- 地域リーダー育成については、目的が興味深く、しっかりとした取り組みを行っているとは評価できる。「地域共創コーディネーター養成プログラム」の受講料（36,000 円）が高いのではと思ったが、説明を聞いて納得できた。「庄内地域カレッジ」に全教員の 4 分の 1 以上が関わっているというのは、貴学のような小規模大学だからこそできることだろう。そうした強みをこれからも活かしながら、事業を進めていただきたい。
- 研究については、個々の教員が地域の研究を行うだけでは不十分で、その成果を地域に還元する必要がある。その意味で、地域課題解決全国フォーラムを研究成果報告の場としていることは良いと思う。せっかく良い研究をしても、それが広く認知されなくては意味がない。今後は、学生を巻き込んだ研究を活発化させることも検討してほしい。
- アクション・プロジェクトでは、貴学 COC の「7つの課題」に対して、実際にいろいろな取り組みが行われていて大いに評価できる。

○発信・アーカイブについては、自分も企画部門を担当しているので、大変なのはよく分かる。ホームページはだんだん見なくなる傾向にあるため、SNSやYouTubeなどさまざまな媒体を使って情報発信する必要がある。その際に重要なのは、一方的な発信ではなく、手応えをどうつかむかだ。次のステップとして、閲覧者の反応をどのように把握し、それをどうやって次の発信に活かしていくかについての仕掛けづくりを期待したい。

## 28 年度実施事業に対する外部評価委員コメント (2)

- 日本学術振興会による、貴学 COC の平成 28 年度評価が「A」(5 段階で上から 2 番目) だったことは、建学の精神に基づく取り組みが順調に進展しているものと評価できる。この流れを一層進化・定着させていくために、COC 終了後の継続性を議論してほしい。
- カリキュラムについて、地域志向科目が増えてきたことは良いことだ。学生アンケートでも 7~8 割が肯定的な回答をしている。一方で、2~3 割の否定的な回答の要因は何なのか。PDCA サイクルの中で、さらなる改善と高みを目指してほしい。
- 地域リーダー育成について、目的に「地域課題解決の 6 つの段階」(I 発見, II 共有, III 調査研究・課題への理解, IV 課題解決策の立案, V 合意形成, VI 実践) を示しているが、知識の習得を主眼としたカリキュラムの印象を受ける。地域の課題を捉えたテーマ設定や、実践力が身につく内容を期待したい。また、受講後のリーダーの活動をサポートする支援体制づくりや、貴学の知的資源を活かすためにも、高大連携に一層力を注いでほしい。
- 昨年度も指摘したが、地域課題解決全国フォーラムに、首長をはじめとした行政関係者の参加が少ないのは残念だ。せっかく地元にもこのような、地域課題を掘り下げるイベントがあるのだから、議員も含めて参加を促進し、議論の成果を政策レベルに引き上げられるようなスキームが必要だと思われる。また、実践・研究報告では学生の発表も多く見られたが、発表だけで終わることなく、その後の評価や指導もしっかりと行ってほしい。
- アクション・プロジェクトは、貴学のスタッフが真摯に取り組んでいるものとして評価できる。ただ、全体の中でどの程度の学生が参加しているのかが分からない。学生もこうしたプロジェクトに積極的に参加し、4 年間で公益大生としてのアイデンティティを身に付けられるような仕組みを構築してほ

しい。

- 貴学の取り組みが地域一般に認知されるのはなかなか難しいとの報告もあったが、優れた取り組みも多くあるので、さらなる発信力強化に向けて努力を期待したい。
- 自分も関わった学外実習が準備不足で、学生の期待に十分沿うことができなかったことをお詫びしたい。今後は、実習前、中間時、終了時において、学生に期待する学習内容や履修科目との関連、大学がどういう能力を（学生に）身に付けさせたいのかを、大学・学生・地域の間で、オリエンテーションのような形で認識を共有しながら進めていければと考えている。引き続き貴学の協力をお願いしたい。

### 28 年度実施事業に対する外部評価委員コメント (3)

○配布資料では、それぞれの事業や取り組みに対して、「A」から「E」までの内部評価が行われている。われわれは外部委員なので、本来であれば、一つ一つに対して、その評価が適切であるかの検証を行うべきかもしれないが、これらの評価は、各先生が客観的に判断した証だと思われるので尊重したい。したがって、今回の評価は記載内容に対して行うこととする。

○カリキュラムについて、インターンシップや社長インターンシップの参加者が少なかったのは、他の演習科目を履修した学生が多かったからという説明があったが、そもそも、両者は同一視できるものなのか。そうだとしたら、貴学 COC/COC+の重点科目である、インターンシップ/社長インターンシップが相対的になぜ少ないのか検証してもらいたい。また、ディプロマポリシーの項目にある「割合」の計測方法がよく分からないので理解しにくい。補足的に記載した方が良い。

○地域リーダー育成について、自分が関わっている地域活動では、実は担い手が高齢化しているため、自分たちは頑張っても、その後どうなるのかという不安がある。その意味で、小学生から大人まで、いわば短期、中期、長期の視点に立って人材育成を行っている点は大変評価できる。

○アクション・プロジェクトでは、一つの取り組みとして「地域包括ケアシステムの構築に向けた“市民参画”の仕組みづくり」に注目している。目的に「生活支援サービスの立ち上げ」とあるが、行政では、そうしたサービスは地域住民で担ってほしいと考えている向きがある。したがって、どこかの事業所が携わるというよりは、地域住民の間で、そうしたサービスを実現するためにどのような意思決定を図っていくべきかを模索してほしい。

○最後に感想として、今回の報告を聞いて、学生は実にいろいろ面倒を見てもらっているのだなという思いを強くした。正直、そこまで面倒を見なければ

いけないのかという思いが全くないと言えばウソになるが、これもひとえに先生方のご苦勞の賜物であると敬意を表したい。また、貴学がCOCを中心として、地域のさまざまな活動に協力いただいていることに感謝申し上げます。

以上